

以下の文章は、國部克彦「リスク社会における責任と倫理——混乱を克服するために」(國部克彦・後藤玲子編著『責任という倫理——不安の時代に問う——』(ミネルヴァ書房, 2023年)所収)に、出題用の編集を加えたものである。この文章を読んで、後の問いに答えなさい。

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

問 1 下線部①について、筆者は「責任」には、「外部から割り当てられた責任」と、「人間の内面から生じる内発的な責任」の2種類があると述べている。筆者は「内発的な責任」が、リスク社会においてどのような役割を果たすことを期待しているのか。本文の主張に即して、250字以内で説明しなさい。

問 2 下線部②について、筆者は、近代社会のリスク対処が新たなリスクを生み出すことを指摘している。なぜシステムによる対応がかえってリスクをもたらすのか。筆者の主張に基づいて、200字以内で説明しなさい。

問 3 下線部③について、筆者の主張を踏まえて、あなた自身が所属している(または過去に所属していた)集団(学校、クラブ活動、地域活動など)や、日常生活の中で、制度や多数派の意見なしに決定に疑問を感じながらも発言をためらったり、あるいは声を上げたりした経験、またはそのような場面に立ち会った経験を一つ取り上げ、その経験を振り返って、あなた自身の判断や行動が、筆者の主張とどのように関わっていると考えるか。筆者の主張に対して賛成か反対かは問わないが、立場を明確にして、500字以上600字以内で論じなさい。